

持続可能な発展のための教育（ESD）を
学校教育でどう進めるか？！

*ESDの学習指導過程を
構想し展開するために
必要な枠組み*



国立教育政策研究所 教育課程研究センター

持続可能な発展のための教育（ESD）の 学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み

ESDの視点に立った学習指導の目標

教科等の学習活動を進める中で、

問題解決学習

「**持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、
それらを解決するために必要な
能力や態度を身に付ける**」

ことを通して、
持続可能な社会の形成者として
ふさわしい資質や価値観を養う。

持続可能な社会づくり の構成概念(例)

- I 多様性
- II 相互性
- III 有限性
- IV 公平性
- V 連携性
- VI 責任性

ESDの視点に立った学習指導で 重視する能力・態度(例)

- ① 批判的に考える力
- ② 未来像を予測して計画を立てる力
- ③ 多面的、総合的に考える力
- ④ コミュニケーションを行う力
- ⑤ 他者と協力する態度
- ⑥ つながりを尊重する態度
- ⑦ 進んで参加する態度

このリーフレットでは、ESDを学校教育で進める上で、各教科等の授業の中でESDの視点に立った学習を展開することを前提としたため、その目標を必要最小限に精選し、「**持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けること**」と設定しました。つまり、ESDの視点に立った学習を、持続可能な社会づくりに関する問題解決学習と捉えています。そして、各教科等の学習活動を進める中で、この目標の達成をねらいながら授業設計や授業改善を行うことが、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことに資すると考えました。このような考えに基づき、ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組みとして提案したものが、上の図です。

【参考】ESDの目標

「環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすこと」
（「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議、2006）

ESDの視点に立った学習指導を進める上での留意事項

ESDの視点に立った学習指導を進める上では、教材(学習課題、学習内容)を内容的・空間的・時間的につなげること、学習者同士、学習者との立場・世代の人々、学習者と地域・社会などをつなげること、身に付けた能力・態度を具体的な行動に移し、実践につなげるのが大切です。

そして、具体的な課題の発見・探究・解決の過程で、児童生徒自らが持続可能な社会づくりに関する価値観を身に付け、自らの意思を決定し、行動を変革していくことができるよう配慮することが大切です。

教材の「つながり」

ESDでは、持続可能な社会づくりに関わる課題に対して多面的、総合的に探究していくことが求められます。

そのため、ある教科等で取り上げる教材(事物、現象、題材、課題など)が、他の教科等や他の学年・学校種で扱われる教材ともつながっていることや、実生活・実社会ともつながっていることに気付き、それらについて関心や認識をもつこと、さらにはそれらを相互に関連付けて見たり考えたりすることが大切です。

つまり、教材や各教科等の内容的な「つながり」、教室・学校と地域・社会・国・世界との空間的な「つながり」、過去・現在・未来といった時間的な「つながり」などを図りながら学習を進める必要があります。

3つの「つながり」

ESDでは、学習の過程において、自分と他者とが時間と場を共有しながら互いに学び合い、つながり合うことが大切です。

そうした過程の中で、他者との対話やコミュニケーションの大切さを感じ取ったり、他者の活動に共感したりしながら、それに必要な能力・態度を身に付け、さらに新たな考えや行動を生み出していくことになります。

そのためには、児童生徒同士の「つながり」を取り入れた参加体験型の学習を展開したり、地域(身近な地域だけでなく、国内や海外、とりわけ発展途上国も含めて)との「つながり」を図りながら、多様な立場や世代の人々との「つながり」が体験できる場を用意したり、さらには、発達の段階に応じて、将来世代や過去世代との「つながり」も想像させたりするなどの工夫をすることが必要です。

ESDでは、関心を高めたり、認識を深めたりするだけでなく、身に付けた能力・態度を行動に移していくことや、実生活・実社会における実践につなげていくことが大切です。

そのためには、各学校・地域の実情や児童生徒の実態に応じた課題を取り上げて、教科等における学習と活動との「つながり」や学校と家庭・地域社会との「つながり」を図りながら、継続的・実践的な「つながり」をもった指導を推進したり、現実的な問題解決との「つながり」になるように取り組んだりするなどの工夫をすることが必要です。

能力・態度の「つながり」

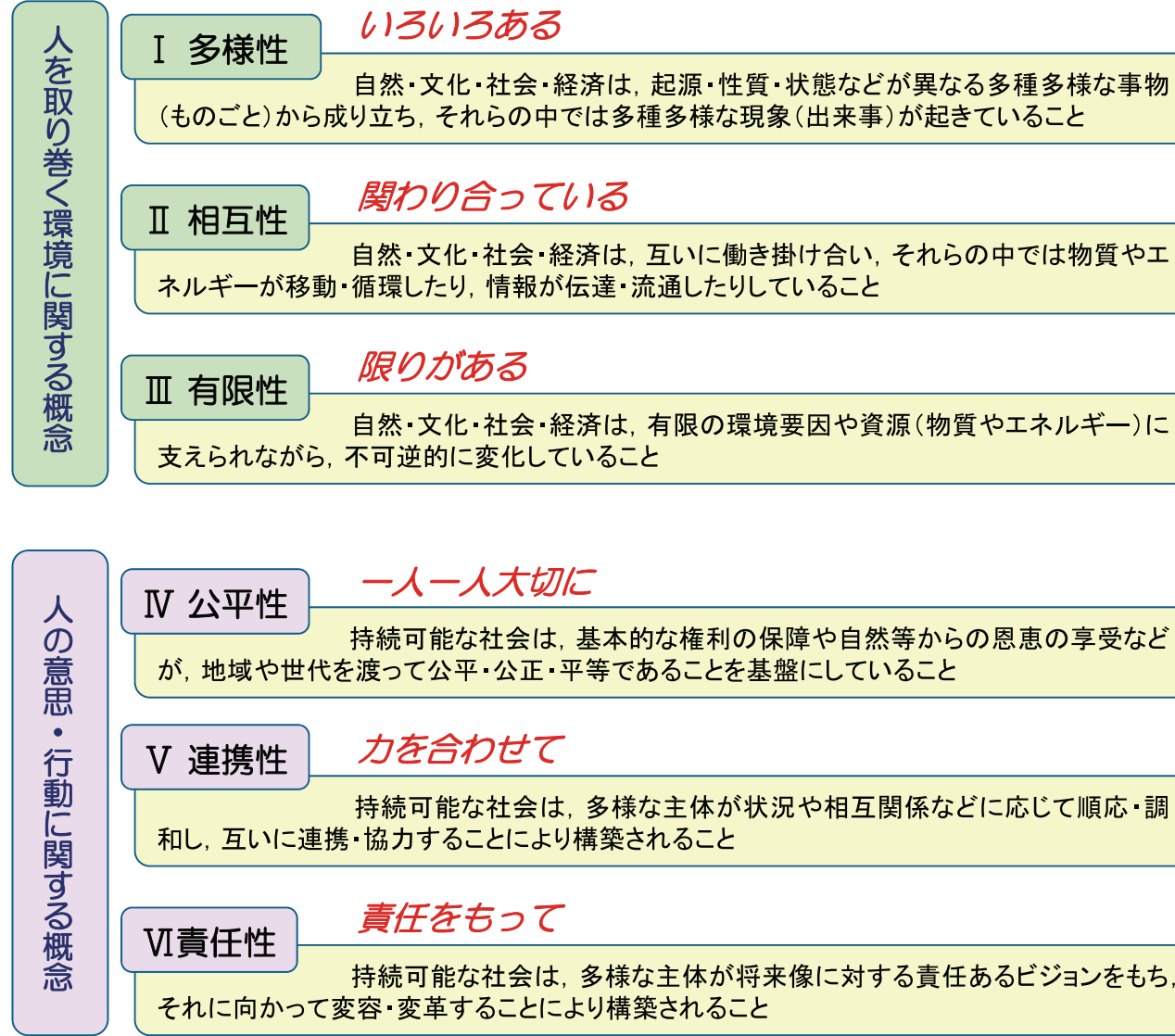
**児童生徒自らの
意思決定へ！**

人の「つながり」

持続可能な社会づくりの構成概念(例)

ESDの視点に立った学習指導の目標にある「持続可能な社会づくりに関わる課題」を見いだすためには、「持続可能な社会づくり」を捉える要素(構成概念)を明確にすることが必要です。

このリーフレットでは、「持続可能な社会づくり」に関連する概念を、上位概念として、[1]人を取り巻く環境(自然・文化・社会・経済など)に関する概念と、[2]人(集団・地域・社会・国など)の意思や行動に関する概念の2つに大別しました。そして、多く要素が複雑に絡み合った「持続可能な社会づくり」をシステム(①多種多様な要素からなり、②それらが互いに作用し合い、③ある方向へ変化しながら、全体として一定の機能を果たすもの)として捉え、上位概念を更にそれぞれ3つの下位概念から構成しました。



【注】赤字で示したキーワードは、それぞれの構成概念のイメージを喚起するために表現したものです。また、「持続可能な社会づくり」の構成概念は、これら6つの概念に限定されるものではありません。必要であれば新しい概念を加えることも考えられます。

構成概念の解説と関連した学習内容の例

- I 多様性**
 自然・文化・社会・経済は、それぞれの形成過程で様々な様相を見せ、多種多様な事物・現象が存在しています。そうした生態学的・文化的・社会的・経済的な多様性を尊重するとともに、自然・文化・社会・経済に関わる事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切です。
 例) ◆生物は、色、形、大きさなどに違いがあること
 ◆それぞれの地域には、地形や気象などに特色があること
 ◆体に必要な栄養素には、いろいろな種類があること
- II 相互性**
 自然・文化・社会・経済は、それぞれが互いに働き掛け合うシステムであり、それらの中では物質やエネルギー等が移動・消費されたり循環したりしています。人は、そうしたシステムとのつながりを持ち、さらにその中で人と人が互いに関わり合っていることを認識することが大切です。
 例) ◆生物は、その周辺の環境と関わって生きていること
 ◆電気は、光、音、熱などに変えることができること
 ◆食料の中には外国から輸入しているものがあること
- III 有限性**
 自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源(物質やエネルギー)は有限です。このような有限の物質やエネルギーを将来世代のために有効に使用していくことが求められます。また、有限の資源に支えられている社会の発展には限界があることを認識することも大切です。
 例) ◆物が水に溶ける量には限度があること
 ◆土地は、火山の噴火や地震によって変化すること
 ◆物や金銭の計画的な使い方を考えること
- IV 公平性**
 持続可能な社会の基盤は、一人一人の良好な生活や健康が保証・維持・増進されることです。そのためには、人権や生命が尊重され、他者を犠牲にすることなく、権利の保障や恩恵の享受が公平であることが必要で、これらは地域や国を超え、世代を渡って保持されることが大切です。
 例) ◆健康を保持するような食事・運動・休養・睡眠などが保証されていること
 ◆自他の権利を大切にすること
 ◆差別をすることなく、公正・公平に努めること
- V 連携性**
 持続可能な社会の構築・維持は、多様な主体の連携・協力がなくては実現しません。意見の異なる場合や利害の対立する場合などにおいても、その状況にしたがって順応したり、寛容な態度で調和を図ったりしながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切です。
 例) ◆地域の人々が協力して、災害の防止に努めていること
 ◆謙虚な心を持ち、自分と異なる意見や立場を大切にすること
 ◆近隣の人々との関わりを考え、自分の生活を工夫すること
- VI 責任性**
 持続可能な社会を構築するためには、一人一人がその責任と義務を自覚し、他人任せにするのではなく、自ら進んで行動することが必要です。そのためには、現状を合理的・客観的に把握した上で意思決定し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンをもつことが大切です。
 例) ◆我が国が国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと
 ◆働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと
 ◆家庭で自分の分担する仕事ができること

学習内容の例は、小学校学習指導要領(文部科学省, 2008)による

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度として、7つの能力・態度を例示します。各教科等の指導において、単元(題材)の目標や授業の目標に、これらに基づいたものを付加したり関連付けたりすることを通して、ESDの視点に立った学習指導が展開できます。

① 批判的に考える力

合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力

② 未来像を予測して計画を立てる力

過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力

③ 多面的、総合的に考える力

人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を理解し、それらを多面的、総合的に考える力

④ コミュニケーションを行う力

自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力

⑤ 他者と協力する態度

他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度

⑥ つながりを尊重する態度

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度

⑦ 進んで参加する態度

集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

【注】 ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度は、これら7つに限定されるものではありません。必要であれば新しい能力・態度を加えることも考えられます。

能力・態度の具体例

① 批判的に考える力

- 他者の意見や情報を、よく検討・理解して採り入れる
- × 得られたデータや考え方を鵜呑みにする
- 積極的・発展的に、よりよい解決策を考える
- × 消極的・悲観的に考え、すぐに諦めて、答えだけを得ようとする

② 未来像を予測して計画を立てる力

- 見通しや目的意識をもって計画を立てる
- × 無計画にものごとを進めたり、その場しのぎをしたりする
- 他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる
- × 独りよがりにもものごとを進めてしまう

③ 多面的、総合的に考える力

- 廃棄物も見方によっては資源になると捉えることができる
- × 役に立たないものは不要だと考える
- 様々なものごとを関連付けて考える
- × まとまりがなく、断片的な見方をする

④ コミュニケーションを行う力

- 自分の考えをまとめて簡潔に伝えることができる
- × 他者の意見の欠点ばかりを指摘し、自分の考えを言わない
- 自分の考えに、他者の意見を取り入れる
- × 他者の意見を聞こうとしない

⑤ 他者と協力する態度

- 相手の立場を考えて行動する
- × 自分のことしか考えない
- 仲間を励ましながらかチームで活動する
- × 身勝手な行動、同調しない態度をとる

⑥ つながりを尊重する態度

- 自分が様々なものごととつながっていることに関心をもつ
- × 自分に直接関係のあることしか関心がない
- いろいろなもののお陰で自分がいることを実感する
- × 自分は一人で生きていると思いつむ

⑦ 進んで参加する態度

- 自分の言ったことに責任をもち、約束を守る
- × 無責任な行動ばかりで、きまりを守らない
- 進んで他者のために行動する
- × 自分が得をすることしかしない

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の具体的な例を、ここに示します。

○印が望ましい能力・態度の例、×印が望ましくない能力・態度の例を表しています。

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度は、「生きる力」にも通じています。

また、国際標準の学力として注目されているキー・コンピテンシーにも関連付けることができます。

	キー・コンピテンシー(OECD, 2005)	ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度
相互作用的に道具を用いる	○ 言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる ○ 知識や情報を相互作用的に用いる ○ 技術を相互作用的に用いる	① 批判的に考える力 ② 未来像を予測して計画を立てる力 ③ 多面的、総合的に考える力
異質な集団で交流する	○ 他人とのいい関係を作る ○ 協力する、チームで働く ○ 争いを処理し、解決する	④ コミュニケーションを行う力 ⑤ 他者と協力する態度
自律的に活動する	○ 大きな展望の中で活動する ○ 人生設計や個人的プロジェクトを設計し実行する ○ 自らの権利、利害、限界やニーズを表明する	⑥ つながりを尊重する態度 ⑦ 進んで参加する態度

「持続可能な発展 Sustainable Development: SD」とは、「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たす開発」や「人間を支える生態系が有する能力の範囲内で営みながら、人間の生活の質を向上させること」と定義されています。そのための教育が「Education for Sustainable Development: ESD）」です。つまり、ESDとは、環境的視点、経済的視点、社会・文化的視点から、より質の高い生活を次世代も含む全ての人々にもたらすことのできる開発や発展を目指した教育であり、持続可能な未来や社会の構築のために行動できる人の育成を目的としています。

国立教育政策研究所では、平成20年度からの4年間にわたり、学校現場にESDを分かりやすく紹介し、教員がESDのカリキュラム開発や実践を行うことができるようになることを目指して、ESDたらしめている要件は何かということをはっきりと明らかにするために研究を進めてきました。その中で、ESDの枠組みとして、持続可能な社会づくりの構成概念やESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度などを明らかにすることができました。

このリーフレットは、その研究成果である「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究[最終報告書]」(国立教育政策研究所 教育課程研究センター、平成24年3月発行)に基づいて作成したものです。報告書とともに、このリーフレットが学校におけるESD推進のための参考資料として広く活用されることを願っています。

「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究[最終報告書]」

第Ⅰ部 平成23年度研究

ESD固有の学習指導過程の構想と展開

ESD固有の価値を学習指導過程で構想した展開例

(小学校家庭科、中学校理科、高等学校総合的な学習の時間など)

第Ⅱ部 平成22年度の成果と課題

平成22年度の仮説の設定

授業実践に基づいた仮説の検証

(小学校社会科、中学校技術・家庭科、高等学校外国語科など)

第Ⅲ部 ESDに関する外国の研究(国際比較など)

第Ⅳ部 教員研修



「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究[中間報告書]」

第Ⅰ部 学校におけるESD

第Ⅱ部 学校におけるESD推進のための実践研究

第Ⅲ部 ESDに関する外国の状況(イギリス、ドイツなど)

第Ⅳ部 資料(学習指導要領からESDに関する内容の抜粋など)

★各報告書の詳しい内容についてお知りになりたい方は、以下のURLにアクセスしてください。

最終報告書: http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_saishuu.pdf

中間報告書: http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_chuukan.pdf

問い合わせ先：国立教育政策研究所 教育課程研究センター

〒100-8951 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

URL <http://www.nier.go.jp/index.html>